

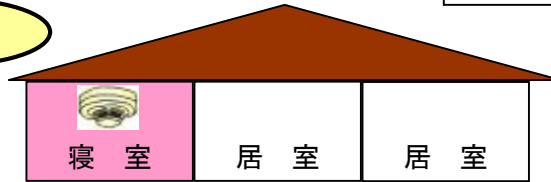
住宅用火災警報器設置例早見表(設置義務)



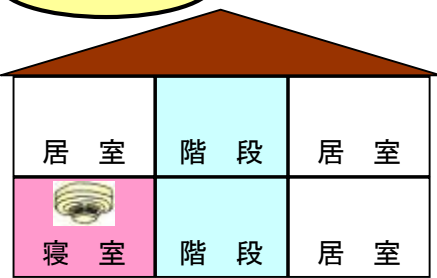
住宅用火災警報器「煙式」

- ※ 台所及び火気を使用する居室については設置に努めてください。
- ※ 台所の場合は「熱式」の住宅用火災警報器とすることができます。

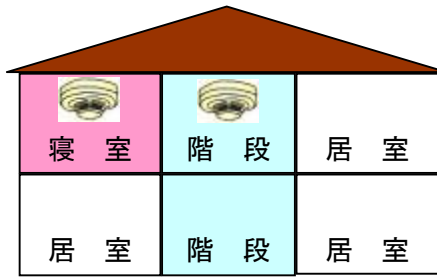
平屋建て



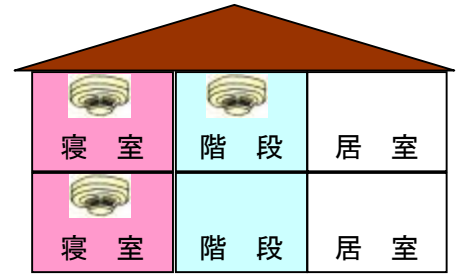
2階建て



①寝室が1階の場合

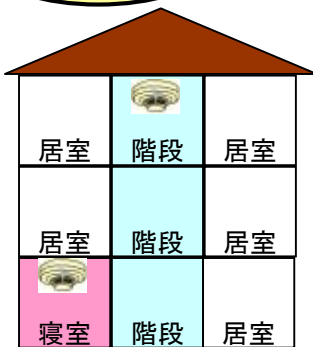


②寝室が2階の場合

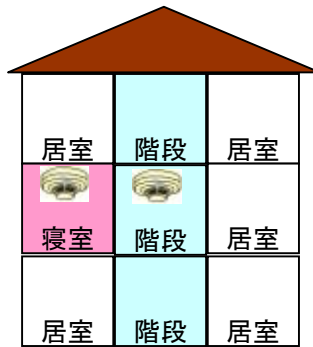


③寝室が1階と2階の場合

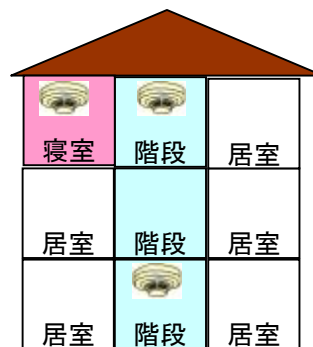
3階建て



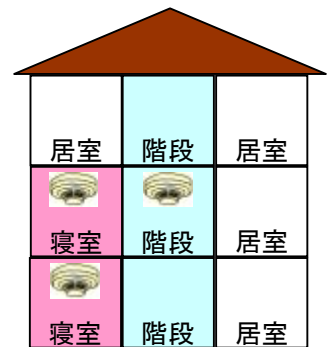
①寝室が1階の場合



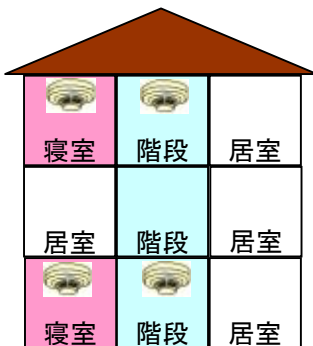
②寝室が2階の場合



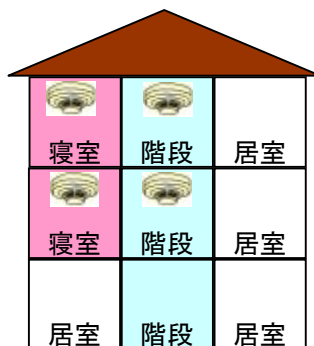
③寝室が3階の場合



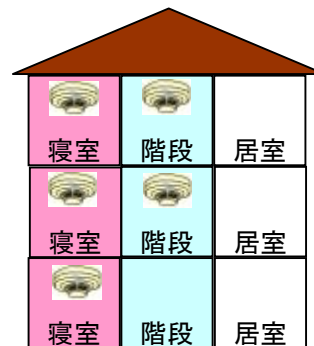
④寝室が1階、2階の場合



⑤寝室が1階、3階の場合

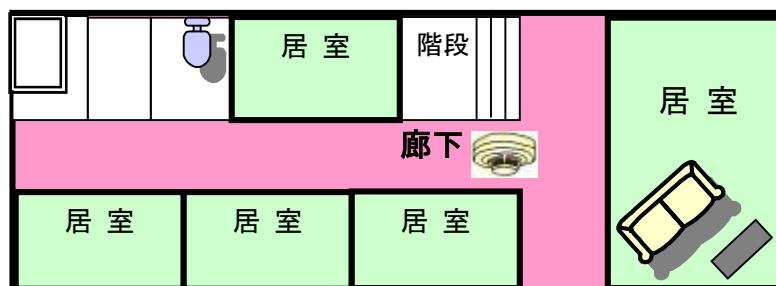


⑥寝室が2階、3階の場合



⑦寝室が1階、2階、3階の場合

寝室や階段に警報器を設置する必要がなかった階で、
居室（7㎡以上）が5以上ある場合



● マンション・アパートなどの共同住宅の場合

それぞれ個人の住宅内のみが設置対象となり、設置場所は戸建住宅と同様です。

※ 自動火災報知設備等が、住宅用火災警報器の設置が義務された場所にある場合は、住宅用火災警報器の設置は不要です。

※ 廊下、階段、エレベーター、エレベーターホール、機械室、管理事務所、その他入居者の共同の福祉のために必要な共用部分については、設置の対象から除きます。